

平成28年第6回

教育委員会定例会会議録

交野市教育委員会

1. 招 集 平成28年4月21日(木) 午前9時30分
2. 開 会 平成28年4月21日(木) 午前9時30分
3. 閉 会 平成28年4月21日(木) 午前11時00分
4. 出席委員 八木 隆夫教育長
羽石 寛寿教育長職務代理者
中井 保 委員
森脇 正子委員
亥埜 誠治委員
5. 事務局 松下 篤志教育次長兼教育総務室長・北田 千秋学校教育部長・松川 剛
生涯学習推進部長・大湾 喜久男学校教育部付部長兼学校規模適正化室
長・小川 暢子生涯学習推進部付部長・竹田 和之健やか部長・古賀 伸
一生涯学習推進部次長兼青少年育成課長・高寄 育学校教育部次長兼指導
課長・島田 国久健やか部次長・苗村 徹健やか部次長・中村 健一こど
も園課長・久保 昌司学校管理課長・真鍋 成史社会教育課長・寺本 憲
昭給食センター所長・末松 肇図書館長・川村 光子 図書館課長・後藤
秀也総務室課長・中井 栄子機能支援センター所長・岡本 滋子あまだの
みや幼稚園長・藤重 郁久子あさひ幼稚園長・川村 ひと江くらやま幼児
園長
6. 議事日程

日程1	会議録署名委員指名
日程2	会議時間決定
日程3 報告第 6号	交野市文化財審査委員の委嘱について
日程4 報告第 7号	交野市文化財保護委員の委嘱について
日程5 報告第 8号	教育長の報告について
日程6	その他
(追加議案) 第18号	交野市放課後児童健全育成事業の設備及 び運営に関する基準を定める条例の一部 改正に対する意見を市長に申し出ること について

7. 議事内容

松下室長

おはようございます。それでは、定例会議の開催に先立ちまして、この4月の人事異動によりまして教育委員会の事務局の職員の移動がありましたので、各担当部長より課長級以上の職員の紹介をさせていただきたいと思っております。まず、学校教育部北田部長から宜しくお願いします。

北田部長

はい。引き続き学校教育部長の北田です。どうぞ宜しくお願いいたします。そうしましたら、移動の方も含めましてご紹介させていただきます。

環境部参事より学校教育部付部長、兼ねて教育委員会の臨時機構として設置されました学校規模適正化室長も兼ねております、大湾でございます。

大湾部長

大湾でございます。宜しくお願いいたします。

北田部長

続きまして、学校教育部次長兼指導課長高崎でございます。

高崎次長

高崎でございます。引き続き宜しくお願いいたします。

北田部長

それから、学校給食課長から学校管理課長になられました久保でございます。

久保課長

久保でございます。引き続き宜しくお願いします。

北田部長

それから、学校給食センター所長の寺本でございます。

寺本所長

給食センター所長の寺本です。4月9日のセレモニーでは、お忙しい中ご出席いただきありがとうございました。また、教育委員の皆様にはスタッフとしてお手伝いしていただき、本当に心より御礼申し上げます。4月12日の給食は、無事に子ども達に提供することができましたので、これからまた職員一同精進して頑張っていきますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

北田部長

以上でございます。

松下室長

続きまして、生涯学習推進部松川部長より紹介させていただきます。

- 松川部長 私、この4月1日で生涯学習推進部長を拝任いたしました松川と申します。どうぞ宜しくお願いいたします。それでは、私の方から生涯学習推進部を紹介させていただきます。
- まず、生涯学習推進部付部長、小川暢子でございます。
- 小川部長 小川です。引き続き宜しくお願いいたします。
- 松川部長 続きます、生涯学習推進部次長兼青少年育成課長の古賀伸一でございます。
- 古賀次長 どうぞ宜しくお願いいたします。
- 松川部長 続きます、図書館長の末松肇でございます。
- 末松館長 末松です。2年ぶりに帰ってまいりました。また宜しくお願いします。
- 松川部長 続きます、図書館課長の川村光子でございます。
- 川村課長 川村です。宜しくお願いいたします。
- 松川部長 最後に、社会教育課長兼文化財係長の真鍋成史でございます。
- 真鍋課長 真鍋です。また宜しくお願いいたします。
- 松川部長 どうぞ生涯学習推進部を宜しくお願いいたします。
- 松下室長 続きます、幼稚園の関係でございますけれども、健やか部竹田部長の方から紹介させていただきます。
- 竹田部長 おはようございます。健やか部部長の竹田でございます。今年度も引き続き宜しくお願いいたします。では、私の方から健やか部の教育委員会に関係することもございまして、職員を紹介させていただきます。
- まず、健やか部次長。昨年度まで健やか部次長でしたが、今年度から子育て支援課長も兼務するということになりました島田でございます。
- 島田次長 島田です。宜しくお願いします。

竹田部長 続きます、健やか部次長。企画財政部次長から転任してまいりました苗村でございます。

苗村次長 苗村です。宜しくお願いします。

竹田部長 続きます、教育委員会青少年育成課長からこの度こども園課長に転任してまいりました中村でございます。

中村課長 中村です。引き続き宜しくお願いいたします。

竹田部長 続きます、機能支援センター（子どもゆうゆうセンター）でございますが、所長の中井でございます。

中井所長 中井です。宜しくお願いします。

竹田部長 そして、幼稚園の園長を本日ご紹介させていただきたいと思います。順番に、あまだのみや幼稚園園長の岡本でございます。

岡本園長 岡本でございます。宜しくお願いいたします。

竹田部長 隣が、旭幼稚園園長の藤重でございます。

藤重園長 藤重でございます。宜しくお願いいたします。

竹田部長 最後になりますが、くらやま幼稚園の園長。昨年まで園長代理でした。今年から園長となりました川村でございます。

川村園長 川村でございます。宜しくお願いいたします。

竹田部長 以上でございます。どうぞ宜しくお願いいたします。

松下室長 最後になりましたけれども、教育総務室の職員の方を私の方から紹介させていただきます。まず、私でございますけれども、この4月から教育委員会の方で仕事をさせていただくことになりました教育次長兼教育総務室長の松下でございます。宜しくお願いします。

次に、教育総務室課長の後藤でございます。

後藤課長 後藤です。引き続き宜しくお願いいたします。

松下室長 よろしく申し上げます。以上、この4月より新しくなりました教育委員会事務局の職員の紹介でございます。

八木教育長 ありがとうございます。どうぞ宜しくお願いいたします。それでは、始めさせていただきます。

後藤課長 すみません、退出させていただきます。

八木教育長 はい。

後藤課長 ありがとうございます。

(関係外部署職員退出)

八木教育長 それでは、只今より平成28年4月、第6回教育委員会定例会議を開催したいと思います。開催の前に、事務局から本日の出席状況の報告をお願いいたします。

後藤課長 出席状況を報告いたします。本日の出席者は5名でございます。以上、報告を終わります。

八木教育長 報告はお聞きのとおりです。

只今から、平成28年第6回教育委員会定例会議を開催いたします。本日の会議は、お手元に配布しております議事日程に従い進めさせていただきます。

まず、日程1「会議録署名委員指名」を議題といたします。会議録署名委員の指名につきましては、交野市教育委員会会議規則第20条の規定に従い、教育長が指名することとしてよろしいでしょうか？

全員 異議なし。

八木教育長 はい。ご異議がありませんので、中井委員お願いいたします。

続きまして、日程2「会議時間決定」を議題といたします。会議時間決定につきましても、教育長一任とさせていただいてよろしいでしょうか？

全員 異議なし。

八木教育長 申し訳ございませんが、本日、私近畿教育長協議会が午後からございますので、協議会も含めまして午前11時30分程度でとどめていただきたいと思います。ですから、会議そのものは午前11時頃を目途ということで宜しくお願いいたします。

続きまして、日程3 報告第6号「交野市文化財審査委員の委嘱について」、日程4 報告第7号「交野市文化財保護委員の委嘱について」を合わせて議題といたします。事務局説明をお願いいたします。

真鍋課長 はい、それでは報告第6号及び報告第7号をご説明させていただきます。「交野市文化財審査委員の委嘱について」ということで、交野市文化財法施行規則第18条の規定に基づき、交野市文化財審査委員として次の者を委嘱したいので、委員会の承認を求めます。

1. 委員名簿 別紙の通り
2. 任期 平成28年4月1日から平成30年3月31日
平成28年4月21日提出

続きまして、1枚飛んでいただきまして、報告第7号「交野市文化財保護委員の委嘱について」。交野市文化財保護条例施行規則第17条の規定に基づき、交野市文化財保護委員として次の者を委嘱したいので、委員会の承認を求めます。

1. 委員名簿 別紙の通り
2. 任期 平成28年4月1日から平成30年3月31日
平成28年4月21日提出

それでは、資料の方をご説明させていただきたいと思います。最初の報告第6号を1枚めくっていただきまして、委員名簿というものをご覧いただきながら説明をさせていただきたいと思います。

文化財審査委員及び文化財保護委員の委嘱につきましては、今回の案件につきましても、交野市教育委員会教育長に対する事務委任規則の第3条に

基づきまして、教育長が臨時代理した案件につきまして、同規則第4条に基づき今回教育委員会に報告するものでございます。

それでは、委員の方をご説明させていただきたいと思います。文化財審査委員会は、文化財の保護及び活用に関しまして、専門的な審査を行います機関でございます。その委員さんに関しましては、この4名を引き続き昨年度まで2ヵ年就任いただいたんですけども、いずれの4名も継続して今年度より2ヵ年お願いするところでございます。

委員の紹介でございますが、順に簡単に説明させていただきますと、今堀太逸先生。佛教大学歴史学部教授。この方は日本中世史、文献史学を専攻とされている方です。平成13年3月より就任いただいております。

木下密運先生。元奈良大学文学部講師。仏教史を主に専攻されておられて、平成2年4月より就任いただいております。

近藤茂先生。元滋賀県教育委員会文化財保護課。安土城考古博物館の方で安土城の保存・修復などに専念されておられます。

続きまして、斉藤望先生。こちらの先生は仏像とか彫刻などが専門でございます。大谷大学文学部教授。平成21年4月よりご就任いただいております。この4名を引き続きご就任をお願いしたところでございます。

続きまして、報告第7号の文化財保護委員でございますが、名簿の方を見ていただきたいと思います。文化財保護委員といたしまして、2年継続でお願いしたところでございます。

最初の者は奥野和夫。大阪府文化財愛護推進委員。元交野市の生涯学習部長で、文化財の保存・活用にも尽力いただきました。平成24年4月より就任をいただいております。

平田政信。こちら大阪府の文化財愛護推進委員でございます。平成16年3月より文化財保護委員として就任いただいておりますこの2名も、継続してお願いしたところでございます。

以上、計6名を昨年度に引き続き就任をお願いしましたので、教育委員会に報告をさせていただきました。どうぞ宜しくお願いいたします。

八木教育長 はい、先程の説明の中で、委員の方の近藤さんはいつから就任されました？

真鍋課長 近藤茂さんは、平成26年4月より就任をいただいております。

八木教育長 はい、分かりました。説明は終わりました。質疑を受けたいと思います。質疑はありませんか？

中井委員 よろしいですか？

八木教育長 はい。どうぞ、中井委員。

中井委員 審査委員会として、年に何回ぐらい開かれているんですか？

真鍋課長 年に1回です。

中井委員 年に1回。

真鍋課長 はい。

中井委員 ちなみに、交野の文化財の指定とかそんなことを審議されるということですか？

真鍋課長 はい。指定文化財の指定とか、大きな保存とか何かそういうものがある場合には、審査委員会にまず意見を聞かせていただいているということだと思います。

中井委員 最近是指定とか発生しているんですか？ここ数年。新規の。

真鍋課長 ここ数年はないです。

中井委員 ないですか、なるほど。私部城はどんな委員会の取り扱いになっているんですか？

真鍋課長 私部城に関しましては、今年度は委員会の開催が予算の方が…。

中井委員 いやいや、ちょっと待って。委員は承認をするけれども、開けないということですか？

真鍋課長 私部城は私部城の保存委員会がございまして、こちらの方は色々な指定文化財であるとか、そういう委員会審査もしていただくような委員会でもございまして、私部城の保存委員会とはまた別のものです。条例に定まっています審査委員会がございまして。

中井委員 どちらが？

真鍋課長 交野市の今ご審議いただいている方です。

中井委員 ということは、私部城は条例で定まっていない審査委員会ということですか？条例で定まっていないところで審査されたものが公的な承認を受けるんですか？どうして文化財審査委員会があるのに、別立てでそういうことをやっているんですか？

いや、今初めて聞いてちょっと不審に思っただけ。多分世間の人は皆不審に思うだろうけれど。

どうですか？次長。不審に思われませんか？

真鍋課長 すみません、確認させていただきます。

中井委員 はい。おかしいですよ。していることが悪いとは言ってないですよ。こんなものはやっぱり。

森脇委員 そうですね。

中井委員 それと、後で予算の話をお願いしますけれども、色んな予算がある中で、この審査委員会が年に1回を開けるだけの予算も認められなかったというのも。

森脇委員 それはするんですよね？

中井委員 えっ？「審査委員会は開くんですか？」と言ったら…。開くんですか？

真鍋課長 こちらの文化財審査委員会の方は開かせていただきます。私部城の方の保存委員会の方が。

中井委員 開けない？

真鍋課長 はい。

中井委員 そうですか。

八木教育長 私部城は予算がつかないんですよ。

中井委員 私部城はつかないんですか。

真鍋課長 こちらの方の審査委員会の方はやらせていただいておりますので、秋口ぐらいに。

中井委員 そうですか。それじゃあ、そこで私部城の話をすれば良いのでは？

八木教育長 文化財って、形のある仏像とかそういうようなものを文化財としてどうこうと審査するのがこちらなんです。

真鍋課長 そうです。

八木教育長 そうですよね。

真鍋課長 はい。

八木教育長 私部城って城跡ですからね。

中井委員 ということは、文化財の対象ではないということですか？私部城は。

真鍋課長 より専門的な城に関しての審議を行う委員会でございます。

中井委員 後で教育審議会の話も出るだろうけど、教育審議会の中で専門部会を作って専門的なものを掘り下げるといふ、そういうシステムをきちり整理して、こういう風な文化財審議会の中に私部城専門委員会を作っておけば話は分かりやすいとは思いますが、別立てというのはなかなか理解できないのですが、部長どうでしょう？

森脇委員 また後日変更ということで検討されたら。

八木教育長 他に質疑はございませんか？

中井委員 じゃあそういう意見を付け加えてください。

八木教育長 はい。その辺の仕組みについて後日説明させていただくということで。そうしますと、とりあえず今はこの方々をそれぞれ委嘱したいけれどもいかがかという案件です。

中井委員 そうですね。

八木教育長 それについてはよろしいでしょうか？

全員 異議なし。

八木教育長 それでは、ここまでの報告は終わらせていただきます。
続きますと、日程5 報告第8号「教育長の報告について」を議題といたします。まず、報告1「学校教育施設の目的外使用許可について」の概要説明をお願いいたします。

久保課長 はい。報告事項1「学校教育施設の目的外使用許可について」ご報告させていただきます。

3件申請がございまして、まず1件目が、申請者につきましては八木教育長になっております。日時につきましては、平成28年3月13日(日)午前8時～午前9時30分。使用施設につきましては、市立私市小学校体育館となっております。その目的といたしましては、交野市チアリーディング事前練習の使用のためということでございます。

2件目、申請者につきましてはこちらも八木教育長ということで、日時につきましては、平成28年4月10日(日)午前9時～午後4時までとなっております。使用施設といたしましては、こちらも市立私市小学校の校舎前となっております。その目的といたしましては、交野市青少年音楽団体第40回定期演奏会の観覧者用の駐車場として使用するためということでございます。

3件目、申請者は黒田市長ということでございまして、日時につきましては、平成28年6月4日(土)午前8時30分～午前12時ということになっております。使用施設といたしましては、市立長宝寺小学校敷地内ということで、その目的といたしましては、農業体験学習開催に伴う会場及び関係者駐車場として使用するためとなっております。

以上の3件につきまして申請がございまして、確認を行った上で使用許可をさせていただいております。報告は以上です。

八木教育長 はい。ちょっと2箇所間違いがありますね。1番目のチアリーディングの事前練習の使用の次の「り」はいらぬ。先程の3つめのところは、午後12時ではなく午前12時だと思いますので、申し訳ございません。宜しくお願いいたします。すでに終わったことの許可でございます。これにつきまして、何か質疑はございますか？よろしいですか？

羽石教育長職務代理者 3番目ですね、農業体験学習開催というのは、これは主催はどこがやってるんですか？市自身なんですか？関係者駐車場とありますか？

八木教育長 これの資料はありますか？

後藤課長 資料には書いていないので分らないです。

久保課長 確認させていただきまして、また後日という形になりますがご報告させていただいてよろしいでしょうか？

羽石教育長職務代理者 はい。

八木教育長 はい、他に何か質疑はございますか？

全員 質疑なし。

八木教育長 よろしいですか？でしたら、一応質疑なしと認めまして、先程の件については後日報告をお願いします。では、報告事項1「学校教育施設の目的外使用許可について」を終わります。続きまして、報告事項2「平成28年度普通奨学生の選定について」の概要説明をお願いいたします。

久保課長 はい。報告事項2「平成28年度普通奨学生の選定について」ご報告させていただきます。平成28年度の奨学金の貸付の申請受付を1月～3月の期間ということでさせていただきました。実際、1月号の広報やホームページ等にも掲載して募集等を行ったんですけども、平成28年度の分に関しましては申請をされた方はおられませんでした。ここについては以上です。

八木教育長 はい。説明は以上です。質疑を受けたいと思います。質疑はありません

か？

羽石教育長職務代理人 はい。

八木教育長 羽石教育長職務代理人。

羽石教育長職務代理人 従来ですね、この奨学生については毎年申し込みがあったかと記憶しているんですが、今回0件となってきたというのは、事務局としてはどういう理由で0件になったんだという風にお考えになっているかということをお聞きしたい。

例えば、普通奨学生の制度自身に市民があまり魅力を感じなくなってこういうことになってきたと思われているのか、何かそれとも、0件というのは、せっかく作られた制度が利用されないということでもありますので、事務局としてはこの件についてどのような分析をされているのかお話を聞きたいと思います。

久保課長 平成28年度につきましては申し込みはなかったということなんですけれども、ここ近年の申請件数につきましても平成27年度は3件、26年度が4件、25年度が2件ということで、それ程の申込件数というのではない状況でございます。この1月～3月の期間ということで募集は行ったんですけれども、その期間中に数件の問い合わせ等があったという風に聞いておりますけれども、実際制度的な部分も含めまして最終的には申請されなかったという状況でございます。制度そのものがどうなのかという部分までは現時点でそこまでの分析等は出来ておりませんが、今後その辺も含めまして検討してまいりたいと考えております。

羽石教育長職務代理人 そうですね。宜しくお願いします。

八木教育長 はい、他に質疑はありませんか？

中井委員 はい。

八木教育長 はい、中井委員。

中井委員 関連ですけれども、普通奨学生というのは困窮者に対する奨学金ではないですよね？趣旨・目的は。

久保課長 学校教育法に規定する学校ということで、高等学校、高等専門学校、短期大学、大学等というその学校には絞られるんですけども、その学校に進学または就学されている方で交野市内に居住されている方を対象としております。

中井委員 ということは、先程羽石教育長職務代理者がおっしゃったことと同じですけれども、結局作られた趣旨ですよ。それが時代と共に変遷していくという中で、一方ではセーフティーネットが非常に叫ばれて。昨日も、新聞で門真市が高校受験の子どもに対して無償で塾を開設したという記事が載っていました。やはり世の中で教育の機会均等と言いますか、セーフティーネットの方に出来るだけお金を使うということであれば、制度も限られた予算の中で教育に対してどう有効に使っていくかということも含めて、もうそろそろ検討された方が良いのではないのかなと思います。

3名、4名、2名という中で継続していくのが良いのか、それとも限られた予算でもう1度奨学金的な使い方でセーフティーネットと言いますか、そういう風な教育のバランスを維持していくということで検討されたらどうですかという提案をしたいと思います。

森脇委員 よろしいですか？

八木教育長 はい、どうぞ。

森脇委員 同じなんですけれど、私も詳しいことが分かっていなかったんですが、今貧困の問題とか色々ある中で、やはり大切なことだと思うんですね。でも、奨学金出しても就職してからでもそうなんですけれども、専門学校でもなかなかそれは返せないという問題もありますし、色々な問題を広く見ていただいて、必要性は絶対あるんですけども制度上の問題と現状と、そしてこれからのことを色々検証していただいて、簡単でも良いので報告をしていただけたら良いのではないかなと思います。

八木教育長 他にございませんか？よろしいでしょうか？

亥埜委員 はい。でもやっぱり、最近ニュースで奨学金を借りて返すのが困ってると取りざたされているので、マスコミがそう言ってるから借りるの怖いんじゃないですかね。それに限ると思いますよ。

八木教育長

実はこの奨学金の制度、私が以前学務課長をしていた時代、もう10何年か前なんですけれども、その時も当然あったんですが、その時と今もまったく変わっておりません。教育長になりましてから、この前返済の報告書のリストをいただきました。そのリストの中に私が貸した子がいました。まだ未だに返し続けているんです。返し続けているというのはどういう意味かと言いますと、そんな大したお金を奨学金で渡していませんから、返すのがまだ続いちゃってるんですね。返し切れていないというそういう現状が見えたんですね。「あいつまだ返しているのか」と、見て思いました。私の教え子で、大学か何かに入った時に交野市に申請して、その時にお貸しした時に私が担当課長だったんです。それが未だに返し続けているということで。

それともう一方で、今亥埜委員がおっしゃられたように返済がしんどいということから、例えば文部科学省から、「給付型に切り替えるべきだ」という話も出ているんですけれども、一方で財政の方からは、「そんなことをしたらお金が足りなくなる」という話も出ているので、なかなかこれは大変な話でございます。

ただ、以前私が学務課長をしているときに議会の質問がありまして答弁したんですけれども、確か大学生の最初の6万円でしたっけ？最初の支度金みたいなものは6万円か何かでしたっけ？10万円でしたっけ？

久保課長

年額が6万円で、最初が15万円です。

八木教育長

そのお金について少なすぎるという意見が議員からあったんです。世間には比べると少ないんですが、その時私が答弁させていただいたのは、当時の値段ですが、交野に住んでいる子が仮に京都の大学に行くとすると、交野と三条の半年分の通学定期が2万何千円かなんですね。先程羽石教育長職務代理者に伺ったんですが、教科書代というのは大体1冊2,000円くらいなんだそうです。そうすると、例えば6万円ポンと買ったとして、通学定期を買って教科書何冊か十分に買えるお金なんですよ。

私、当時答弁でこう言ったんです。ご飯食べたり服着たりとかいうのは、大学生になろうが家にいようが必要なことでしょう。大学に行くのに別にかかるお金というのは、電車賃とか靴代とか教科書代は別にかかるから、それはいくらか支援するというのは私は意味があると思います。確かに額は少ないですけども、意味はあると思います。その子の学校に行くための費用を周りが整備できるならそれで良いじゃないですか。それは

少ないと言われたことに対する言い訳なんですけれども、そう答弁しました。

だから、その程度の役には立ってるなと思います。ただ、10年前、20年前と今は変わってますから、委員がおっしゃられるように、やっぱりもう1回見直すべき時期にそろそろきているかなとは思っております。それはまた担当課の方で検討していただきたいと思います。

はい。では、これにつきましては報告を終わらせていただいてよろしいでしょうか？

全員 異議なし。

八木教育長 はい。続きまして、報告事項3「小・中学校児童生徒数及び教職員数について」の説明をお願いいたします。

高寄次長 はい、失礼いたします。今年度の交野市立小・中学校の教職員数についてご説明申し上げます。平成28年度交野市立小学校教職員構成表をご覧ください。交野小学校を例に、見方についてご説明申し上げます。

交野小学校1番左側が学級数となっていて、16と5とございますが、16が通常の学級になっております。5が支援学級です。合わせまして21学級ということです。それに校長、教頭を1名ずつ。教諭等とありますけれども、合わせまして25名が定数。学級数21に対して定数は25となっております。それに加配、改善等とありますけれども、少人数指導の加配になっております。それを合わせました計27が教員数でございます。それに養護教諭、事務職員、英語教諭各1名。交野小学校の場合は3名おりますので、総計として交野小学校は30名の教職員ということになります。

郡津小学校の加配のところに初任1となっておりますが、こちらは初任者に対する加配でございます。また、旭小学校のところに初任1となっておりますが、こちらは通級指導の加配となっております。妙見坂小学校の1は、初任者に対する加配でございます。総計は右下になりますけれども、245名が小学校の教職員数となっております。

ただ、市費任期付講師を含まずということですので、交野市独自にしております小学校5年生までの35人以下学級は含まれておりません。これは4月1日現在なんですけれども、今年度市費任期付講師は5名採用しましたが、実はその5名というのは1月1日の児童生徒数を基準に5名募集

しました。ところが、4月1日あけてみましたら、転出入等の関係でもう1名必要となったことから追加募集しまして、この5月1日から1名多く採用することになります。従いまして、今年度の市費任期付講師は6名となります。合計251名が小学校の教職員ということになります。

裏面をご覧ください。中学校は、先程申し上げたことと大きくは変わりはないんですけども、加配のところ少し変わっております。改善等となっております第1中学校の5でございますが、少人数指導に係る加配が3名。それから、小学校専科と申しまして、中学校の教員が小学校で専門的な指導をするという国の加配に基づく教員が1名。それから、スクールエンパワーメント担当教員と申しまして、保護者地域等と連携して学校全体で学力向上や学校の活性化を図る加配が1名ついておりまして、計5名となっております。

また、児生と書かれております1名は、子供支援コーディネーターでございます。子ども支援コーディネーターは、中学校に加配として配置されておまして、校区の連携であるとか生徒指導上の課題を解決するための加配でございます。同じように、第1中学校の教職員は総計34名となっております。

第2中学校ですが、すみません、訂正が1つございまして、初任とも1になっておりますが、申し訳ございません、ここは2でございます。初任者に対する加配が1名と通級指導が1名の加配がございますので、加配計が5、計37、総計が39となっております。中学校の総計は右下151でございますが、先程の訂正で152名となっております。以上でございます。

八木教育長 はい、説明は終わりました、質疑を受けたいと思います。質疑はありませんか？

森脇委員 はい。

八木教育長 はい、森脇委員。

森脇委員 今の説明で、通級者というのは休まれている方ということですか？

高寄次長 説明足らずで申し訳ございません。通級と申しますのは、通常の学級に在籍している障害がある児童・生徒が、ある時間その学級に通って指導を受けるという制度でございます。

八木教育長 それに対する先生？

高寄次長 はい。

森脇委員 1人だったら、その1人の方に対しての先生ということですか？

高寄次長 旭小学校でしたら、例えば、旭小学校の校内に何人か通常の学級に在籍している障害のある児童・生徒がおりまして指導を受けるんですけども、他の学校の児童も希望をすれば指導を受けることができます。

森脇委員 すみません、もう1つ。スクールエンターメントって何ですか？

高寄次長 これは府の事業で、スクールエンターメント推進事業という事業があるんですけども、それに基づく加配になっております。保護者、地域等と連携して学校全体で学力向上や学校の活性化を図るものでして、亥埜委員が昨年度スクールエンターメント推進支援員ということで、大変お世話になりました。

亥埜委員 あれは各校に1人ですか？

高寄次長 昨年度は第2中学校に1名加配だったんですけども、今年度は第1中学校に変わりました。

亥埜委員 そうということですか。

森脇委員 交野市全体で1人ですか？

高寄次長 はい。

亥埜委員 各校区に1人いてるかと思ってました。違うんですか？

高寄次長 はい。

中井委員 よろしいですか？

八木教育長 はい、どうぞ中井委員。

中井委員 最近の通級の話ですけれども、平常は養護学校に行かれています子どもさんが学校に来られた時ということで良いんですか？

高崎次長 通級ですか？

中井委員 はい、通級指導です。

高崎次長 支援学校はまた別です。

中井委員 いや、別だけれども。

高崎次長 通常の学級に在籍している児童・生徒が指導を受けるものです。

中井委員 それでは、障害をもった子どもの概念を教えてくださいんだけれども。

高崎次長 概念。

中井委員 と言いますか、昨今非常に話題になっている発達障害の子どももその対象に入っているのかどうか。

高崎次長 もちろん対象には入っております。ただ、障害があっても支援学級には在籍していない児童・生徒もおりますので。

中井委員 そうですね。

高崎次長 そういう方が対象になっております。それも保護者が希望したら受けられるというものです。担任が進めるから受けるというものではございません。

中井委員 基本的にはちょっと明確な概念ではないんですけれども、いわゆる養護学校。養護学校という表現で良いんですか？

高崎次長 今は支援学校となっております。

中井委員 支援学校ね。支援学校に行くか通常の学校に行くか、それは親御さんの選択でということですよ。そういう子どもさんだという理解で良いわけですね？基本的には、生徒の大体7～8%ぐらいいてると言われている、いわゆる発達障害の子どもさんの対応というのは、対応するけれども、基本的にはそれに対する明確な意図をもっての加配ではないということですね？これは例年質問しているんですけども。

高崎次長 障害があるお子さんがいらっしゃるって、選択肢としましては、支援学校に行くか地域の学校に行くかの選択肢がございます。

中井委員 そうですね。

高崎次長 地域の学校に行った場合、支援学級に在籍するか通常の学級に在籍するかの選択肢があります。

中井委員 そうですね。

高崎次長 通常の学級に在籍している子どもさんを対象としたものが通級指導となっております。

中井委員 入学時である程度の選択をされるということですか？

高崎次長 そうですね。基本的には入学時ですが、やはり学校生活をしている中で色々出てきますので、その中で保護者の方と相談しながら途中で移られるということも。

中井委員 あるということですね。

八木教育長 はい。

中井委員 分かりました。

八木教育長 はい、他に何か。

亥埜委員 はい。ちなみに、今年のスクールエンターメントは第1中学校区はどな

たがされるんですか？

高崎次長 まだそこまで決まっておられません。

亥埜委員 まだ決まってないんですか。

八木教育長 はい、他に質疑はありませんか？よろしいでしょうか？

全員 質疑なし。

八木教育長 はい、では質疑なしと認めます。以上でもって、報告事項3「小・中学校児童生徒数及び教職員数について」を終わります。

続きまして、報告事項4「平成28年第1回議会定例会一般質問及び答弁の要旨について」ご報告させていただきます。内容がその後の冊子のかなりのページになっておりますので、これをすべて説明するというのは時間がございませんので、概要説明は省略させていただいた上で質疑を受けたいと思います。

すでにご覧になっていると思いますが、何か質疑はございませんか？

中井委員 よろしいですか？

八木教育長 はい、どうぞ。

中井委員 まず、この日にちは3月7日と書いているんですけども、この質問はすべて3月7日ではないですよね？

八木教育長 違いますね。

中井委員 いつからいつまでの議会なんでしょう？

八木教育長 議会の一般質問ですね？

中井委員 はい。

八木教育長 議会の一般質問ですから…。分かりますか？

松下室長 はい。3月8日、9日、10日。この3日間で一般質問はございました。

中井委員 なるほど、そうですか。それを前提として質問させていただきますけれども。

八木教育長 はい。

中井委員 公共施設の総合管理計画と言いますか、いわゆる学校適正化について。ページは、3-1。これで基本的には色んな質問に統廃合の適正化基本方針について回答されているんですけども、我々3月17日にこの適正化について定例会で少し議論をしたと思うんですけども、その時に適正化の教育委員会におけるスケジュールと大体の進め方をいくつも質問しましたが、明確な答弁をしていただけなかった。我々は、その次に全員ではないんですけども勉強会をしたということもあったんですね。

ところが、この時にはもうすでに4月に学校審議会を作るとか審議会に基づいて答申していくと、割と具体的にそういうことを答弁されています。そういうお話を聞いていれば我々も理解しやすかったんですが、3月7日・8日・9日でこういう明確な答弁をされているのに、教育委員会に対してどういうスケジュールでしていくのかということや、審議会につきましてもなかなか不明確だったのに、4月には審議会をどうのこうのという答弁をされていると思います。それについて、若干の疑念という表現はおかしいかもしれませんが、何故その時に議会答弁くらいのお話をしていただけなかったのかという理由をお聞きしたいと思います。

それと、北田部長の答弁で、片岡議員が「放課後等に個別の学習を行う場合の課題は何か」とか、いわゆる学校支援策につきましていくつか質問されているわけですけども、これも教育委員会と言いますか、私もいくつか質問させていただいて、先般の教育委員の講習でも地域との連携推進事業ということで国も非常に積極的に進めていくということでした。

国の教育振興計画では、「平成29年までには100%地域との連携のシステムを整備する」ということを謳っていると思います。それで、先般の教育委員の研修でも、学校支援地域本部から進めて地域学校協働本部というシステムを生涯学習と学校が連携してやっていくということが中教審からでているわけで、我々教育委員に対してレクチャーと言いますか、指導がありました。こういうことを進めていくようにと。

それで、学校支援地域本部につきましてはずっと質問をして、「どうして交野として整備できないのか」という話をしてきたと思います。それで、

学校の放課後授業を含めて、文部科学省のアンケートでは大体50%ぐらいの学校支援地域本部が学校放課後授業に関与しているという結果が出ています。

こういうこともある中で、整備をしたらどうかという提案をずっとしてきたと思います。地域との連携を片岡議員も求められてると思うんですが、「なかなか人が集まらない」とか、北田部長もそういう風な苦しい答弁をされています。これは、基本的にずっと指摘しております学校支援地域本部というシステムを整備して、その整備の中から地域との連携を深めていく等があったといいます。

そして、国の中教審は、そこから一歩進んで地域学校協働本部という中で、我々がこれからやる生涯学習との連携も含めて学校連携をやっていこうと言っています。もうすでに平成25年の基本方針では、平成29年までに整備をやるようにというようなことを書いていますよね。その中でやはり、交野として北田部長の苦しい答弁も含めて、きっちりと世間並みの整備をしていく必要があると思います。

何が世間並だということは、私は文部科学省の課長に質問したんですけども、「交野市は4つの支援本部のうち3つが中学校の校長先生が本部長やっています」と言ったら、即座に「嘘でしょ？そんな」という返答が返ってきました。これは羽石教育長職務代理者も一緒にお聞きになっています。周りの人から、「えーっ！」という声があったんです。それはやっぱり、北田部長の苦しい答弁の中でも、「地域の同意も含めて上手いこといかない。システム上の欠点」ということをおっしゃっているので、色々と答弁はされていますけれども、基本的な整備をきっちりしていく必要があるのではないかなと思います。これは要望ではないですけども、片岡議員の質問を契機に、根本的にもっと真剣に考えるべきではないかなと思いました。

今回のこの質問に対しては、先程の適正化の進め方の問題と地域との連携。生涯学習も28年度に計画策定ということですけども、やはりきっちりと整備していく必要があると思います。交野らしさは良いけれども、きっちりと世間に通じるクオリティーのものを作っていくことには、システムの世間から遅れていくと思いました。

もっと言いたいことは色々あるんですけども、時間が午前11時までしかないということなので、とりあえずそれだけにしておきます。

八木教育長

1つ目のスケジュールのお話ですけども、具体的なことを言っているということで。

中井委員 6-1です。6-1で船戸前教育次長が、「年度当初に教育審議会を立ち上げ、5月には学校規模適正化の基本方針の策定を教育委員会、学校審議会に諮問し」ということを明確におっしゃっているんです。これがもし3月8日であれば、我々は3月17日に色々とコンサルがどうのこうのとかそういう話があったけれども。6-1ですね。6-1の答弁の上から2段目です。6-1ですよ。

亥埜委員 6-1が何枚かあります。

中井委員 何枚かあるんですか？6-1って。

亥埜委員 6-1の船戸前教育次長の箇条書きのところですか？

中井委員 そうですね。

亥埜委員 学校規模の適正化にかかる基本方針。

松下室長 学校規模適正化と学校教育審議会の件なんですけれども。

中井委員 はい。

松下室長 定例会議の後の協議会の方で説明させていただこうかなということで案件を設けさせていただいておりますので、そちらの方でお願いできますか？

中井委員 それで結構です。ただ、3月の8日・9日・10日でこういう答弁をされて、その次の3月17日の教育委員会で議論しているときにこのことをおっしゃっていただければ済む話だったのに、どうしておっしゃっていただけなかったのかなという疑念があります。

八木教育長 船戸前教育次長は、どこかでその日程のスケジュール言ってます？私は聞いていて驚きました。そこまで詳しい日程を言われたので。

中井委員 それは市長との話です。

八木教育長 いやいや、どこでだったか分かりませんが、

中井委員 ひょっとしたら聞き間違いかもしれませんが、学校審議会の位置づけも。

松下室長 位置づけも説明させていただきます。

中井委員 それで結構です。

八木教育長 それで良いですか？

中井委員 その件は後でね。支援本部の件はまた別途議論していただければ良いですけれども。

北田部長 放課後学習の件につきましては、片岡議員のおっしゃっている困難な課題というのは、「学校の先生がやることについての困難な課題は」ということを含めてお聞きになっていたんです。

中井委員 おっしゃるとおりです。

北田部長 従いまして、中学校の場合でしたら部活動もありますし、小学校の場合は会議等もありますし、それから児童を残した後の下校の安全面も含めてこんなんですというお答えをさせてもらってます。指導員につきましては、平成26年度までは学び舎キッズということで全小学校の方に放課後学習で水曜日に配置しておりましたけれども、実際その人集めが困難。つまり、人が来ないという状況がありました。

それから、来られる方についても、本来そこで学習するというよりもお家の方に帰ってくるんだったら学校に残っておいてという感じだったので、本当に必要な子ども達に対する支援ということで学校パワーアップ推進事業というお金をつけるので、必要な学校は学校で学習するようにということで変えさせてもらいました。支援本部の中でも、もちろん土曜学習とかしていただいている学校もありますけれども、学校の必要性和地域の方の応援体制ということになってくると思いますので、そこはまた今年度始まったばかりですので、その辺は調整をさせてもらいたいと考えております。

それから、これは以前にもお話しさせてもらいましたけれども、学校支

援地域本部事業の代表が中学校長というのは、これは元々大阪独自の「校区子どもを育てる会」を自動的に学校支援地域本部事業に変えたら国からお金が下りてくる、ということが平成20年ぐらいにあったんです。その流れがありますので、他市や他の都道府県とは元々のスタートが違いますので、そういうところもあるかと思えますけれども。ただ、中身としては地域の方が一緒になってということですので、その辺も含めて今後充実させていきたいと考えております。

中井委員

そういう答弁ではなくて、我々教育委員会は子どもをどういう風に育てるかという執行機関ですからね。教育振興基本計画の中で書かれていると思うんですが、絆づくりと活力あるコミュニティの形成ということで、社会全体で子ども達の学びを支援する取り組みの推進ということ。これは原点として学校と子どもだけではもうどうしようもないということが前提であるわけですよ。それで、学校支援地域本部、放課後子ども教室などの取り組みを充実させ、保護者はもとより地域住民の参画により子ども達の学びを支援するための体制を平成29年度までに全国の小・中学校に構築する。また、このような取り組みを地域コミュニティの形成につなげていく活動を支援すると、こういう風に明記しています。色んな所で我々勉強してきましたけれども、学校支援地域本部で放課後学習をやっているところは、文部科学省によると大体50%ぐらいあると。当然レベルは色々あると思うんですが、我々も先般文部科学省の学力テストがありましたけれども、学校別の水準を見ていたらやっぱり地域によって学力に差があるというのは厳然たる事実なので、それを国は社会全体で子どもを支援していくと。当然必要ではない地域もあるかもしれませんが、必要である地域もあるということは明確なことだと思うんですよ。

例えば、もうすでに進めているところが多くあると思うんですけども、そういう風なシステムを明確に整備してやって、それと地域の中で学校をサポートするシステムというのは、基本的には構築する必要があるのではないかと思います。

それと、先程中学校長がどうのこうのとありますけれども、やはり文部科学省の役人とか、私の周りの大阪や兵庫県の教育委員の先生が座っておられまして、皆さん「えーっ！」とおっしゃったわけですから、世間一般がそうであるとはなかなか認識できないと私は理解しています。そういうような中で、やはり人が集まらないということは、地域の方で人を集めてどうしようかということをやっているという風に謳っているように私は理解するわけです。

それと、生涯学習ということであればレポートを渡したと思うんですけども、それをスタートとして学校支援地域本部から地域学校協働本部に移行して、生涯学習の面も学校中心としてやっていこうということが中教審の答申だったと理解していますので、学校をサポートするフリースペースの話を森脇委員がいつもおっしゃってますけれども、フリースペース事業も学校支援地域本部の1つの大きな事業であるということ。もう少し地域を信じて、地域と連携をサポートしていくということであれば、今日はちょっとお話しませんが学力テストの5年間の学校ごとの数字を見れば、やはり地域差が明確にあるということなので、ここに対してどう地域をサポートして学校支援をしていくかということも重要ではないかと私は思っています。もっと具体的なことを話せと言われれば話しますが、それも。それと、放課後子どもキッズですか？

北田部長 学び舎キッズです。

中井委員 学び舎キッズですね。あれが昨年なくなって、昨年の4月に教育長がそれぞれ校長にお話をお聞きされた中で、ある校長が「学び舎キッズがなくなってどうしたらいいのか」という風な答弁を書いておられるのを私見まして、その時にも私は質問して、学び舎キッズの代わりにどうサポートしていくのかということで。該当の校長先生がそれに対応してうまく子どものサポート、いわゆるセーフティーネットに使うサポートを出来たのかどうかということも十分と事務局は検証していただきたい。「した」ということではなくて、「してどういう結果があったのか」ということも検証していただきたいと、こういう風に思います。

北田部長 学び舎キッズにつきましては、今年度したいというような学校はございません。ただ、その分放課後ではなくて学校支援員という形で授業の時に支援できるような方を学校の方に多く派遣しておりますので、特段放課後残してということではなくて授業の中でというような支援をさせていただいております。

それから、地域につきましてはもちろん中井委員ご存知だと思いますけれども、どの学校も地域の方が様々な形で協力していただいております。ですから、放課後学習だけではなくて、図書の貸し出しが全校で出来るようになったのは地域の方々のおかげですし。

中井委員 おっしゃるとおり。

北田部長 花壇整備もそうですし、トイレ掃除、学校整備など様々やっておりますので、それをどういう体系づくりをするかという課題はあるかもしれませんが、地域の方には学校に入ってきていただいておりますので、学校と地域の間には溝があるということはないので、その辺の組織づくり、体制づくりということについては課題かなと思います。

中井委員 そうですね。今の花壇づくりにしても図書館にしても、ここに明確に書いてある学校支援活動の一部ということなので、それを別に過小評価しているつもりはないんですけども、その中で学校の授業補助とか学習支援とか、そういうようなものも積極的に進めていこうと。当然学校によって必要のない学校があると思います。

 それと先程、学び舎キッズの後フォローしているということだったんですけども、学び舎キッズで放課後学習を見ていたんですよ？水曜日。

北田部長 そうですね。

中井委員 それがなくなることの校長先生の不安感があったので、その後聞いてませんので。それは昨年4月頃のことなので。

 それと、授業中に見るとということと、いわゆる今の貧困というのは、家庭学習との関連、地域との関連ですからね。学校の先生のレベルというのは、基本的にはそれぞれ交野は一緒だけれども、どこで学力差が出るかというのは、家で勉強を見てもらえるかとかそういうことで出るわけで、それは学校の授業中だけの問題ではないと私は理解しています。それを地域がどうサポートしていくかということはセーフティーネットがらみでやっていると思うので、その辺も踏まえて検討する必要があるのではないのかなと。

 そういう意味で、やっぱり学校支援地域本部というのは制度としてあって、システムとして一貫されたものがあるわけで、これを導入することによって地域との連携を構築していくということも、もう1度真剣に考えたら良いのではないかなと思います。

 以上です。

八木教育長 はい、他に何か質疑はありますか？

亥埜委員 はい。質疑ではないんですが、先程の中井委員に答えるんですけども、

実際土曜日学習とかもやってますけれども、先程北田部長がおっしゃられたように、実情は学び舎キッズにしても土曜日学習にしても親の都合です。子どもの意思ではなく。土曜日学習にしても、午前中いっぱい寝られたら嫌だから行って来いとかね、本当にやる気のある子は極わずかです。そういう子が来たら他の子の邪魔になったりね、そういう実情もあるのでなかなか。学校支援もボランティアなので押し売りは出来ないのです。校長先生との関係でこんなことをやりたいとか言ってしまうと先生の用事も増えるだろうし、土曜日学習なんかでも校長・教頭先生出てきてくれますしね。

そういった負担もありますので、その辺は校長先生との話し合いにもなるし、やっぱり校長先生が長ということでどっちがどっちじゃないですけども、その辺はバランスよく各校区によっても違うと思いますし。その辺はよそがこうだからこうしないといけないとかではなくて、交野は交野でやったら良いと思います。今第2中学校区は上手にバランスがとれていますのでね。学校支援地域本部は学校支援コーディネーターというのが当時ありました。今もあるんですけども、教育コミュニティーで打ち合わせがあるんですけども、他の学校支援コーディネーターさんはどのような立場で動いたら良いかなかなか分かりにくいというような形なので、これから学校支援コーディネーターさんも今予算の関係で難しいという答弁をされていましたが、文部科学省の20年の時にかなり予算でコーディネーター料とかいただいていますので、その貰ってる分でこれから頑張っていたら良いのではないかと。ですから、コーディネーターさんをもう少し活用していただければ良いかなと思います。

森脇委員

良いですか？私は本当によく分かってないんです、実情を。亥埜委員みたいに入っていないし分からないんですけども、ただ、今後大きな問題として統廃合の問題があったりというときに、地域の意見を吸い上げたりとかということが大きく必要になってきますよね。それだけではないと思いますけれども、地域で色々活動している人がいて、色々あるのをうまく効率よく学校と連携できるために学校支援地域本部というものを作ると私は理解しているんですけども、その時にどういう形になるのが一番良いのかということは色々ご意見あると思うんですが、プラス面とマイナス面はどんな形にしろあると思います。

ですが、校長先生は結構変わっていくわけなので、今はこの校長先生だからこのシステムで良くて、変わったらどうか分からないわけだから、全体としてのシステムをどういう風にするのが一番良いのかは1度真剣

に考えた方が良くと思います。こんなに問題が出てきているんだから、どこかでそれを解決する。じゃあこうしようと、皆が納得できる答えは出しで欲しいなと思います。こうだからこうしようという理由づけをしっかりと納得できるようになった上で、今後という風なことがあれば良いのではないかと思います。やっぱり大きいんじゃないかと思います。地域と連携する中でも仲介地点というか。

中井委員

じゃあ、今の森脇委員との関連でちょっと一文読ませていただきます。これは、市町村の教育委員に対して冊子が配られている今月号に書いている文章です。森脇委員が検討してということだけれども、我々は先頭を走るわけではないので、後進どころか1周遅れぐらいの状態だということです。

我が国ではこの20年近くの間、教育は学校の取り組みだけでは不十分であり、学校と保護者や地域住民が連携・協働して行うべきであるとして、様々な施策は講じられてきた。20年間も講じられてきた。その中の一環が学校支援本部だということ。その中で当然、亥埜委員がおっしゃる問題点があるだろうけれども、その問題点というのは当然他のところの問題点で、システムのところでクリアされているわけですよ。したがって、学校と地域とのパラレルの関係で、本部の規定で学校側には要求しないとかそんなことが明確に書かれているから、何もこれから我々が勉強することではなくて、先行事例と言いますか他のところをちょっと見れば分かって、全然難しくないということです。

今言いましたけれども、20年間地域との連携をやってきた。それと府でも支援予算が3年間ついていた。60万円ぐらいだったかな？あれ。

北田部長

もっとありました。

中井委員

もっとあったのかな。でも、やっぱり府の予算だったから3年間で終わってしまったということで。その後継続するかどうかというそれが1点。

それともう1つは、システム上先程の校長先生が本部長ということで、やはりこれは現実的にうまくいってなかった。唯一第2中学校だけが校長先生が本部長ではないんですけれども、これはその本部を作った時に色々あって、第2中学校だけはいわゆる校長先生が本部ではなかったという風に私は聞いています。そういう中で、やはりシステム自体を我々が研究開発して作るということではなくて、日本中でシステムがあるわけで、私も

事務局には規約とか組織図とか他のところを見せて、こういうのがあるじゃないですか、こういうのを作ったら終わりじゃないですかと言っています。これを地域でどうするかということ。

私も岩船、天野が原で今回議論したんですけれども、やはりその辺の関係性がうまいこと保てないところの中で、関係性を保つためにこういう風なシステムを整備していくということも我々教育委員会の大きな義務ではないかなと。もうここまで来たら私は義務だという風に思っています。以上です。

八木教育長 はい。他に何か一般質問に関することございますか？

全員 質疑なし。

八木教育長 よろしいでしょうか？それでは、この報告を終わらせていただきます。次に、報告事項5「平成28年度教育委員会予算主要事業について」の報告をお願いいたします。

後藤課長 各課からお願いします。指導課から。

高寄次長 はい、失礼します。では、指導課からご説明申し上げます。時間もありませんので、主なものをご説明申し上げます。

まず1番上、グローバルコミュニケーション能力向上支援事業でございますが、英語教育を推進していくための事業としまして、英語指導助手ALTを1名増員するものでございます。こちらが今年度の指導課の最重点事業となっております。その下の英語指導助手という派遣事業につきましてはこれまでもありましたが、これまでの英語指導助手ALT4名に加えまして、上のグローバルコミュニケーション能力向上支援事業を加えたというものでございます。

3つ目、スクールソーシャルワーカー活用事業ですが、昨今の様々な課題に対しましてスクールソーシャルワーカーを府の方でも派遣いただいているんですけれども、市独自で配置するものでございます。こころの教育実践支援事業は、臨床心理士を配置しております。

その下3つの支援員派遣事業につきましては、学校の様々な課題を有する児童・生徒のために支援員を派遣するものでございます。以上です。

八木教育長 はい。これは続けていくと分からなくなってしまうと思うので、1つず

つで区切らせていただきます。ただいまの指導課の説明につきまして質疑を受けたいと思います。質疑はありませんか？

中井委員 はい。

八木教育長 はい、中井委員。

中井委員 よろしいですか？今年度の主要事業ということで、グローバルコミュニケーション能力を高めるということを一所懸命されています。これは4名ということは、中学校区に1名ずつ従来おられたということですよ？

高崎次長 はい。

中井委員 小学校も含めて？

高崎次長 小学校も含めてです。

中井委員 プラス1名ということでいいわけですね？

高崎次長 はい。

中井委員 グローバルコミュニケーション、いわゆるALTも良いんでしょうけれども、今回第3中学校区で英語のモデル授業という風にあります。それで、色々小学校のを見ていたら小学校5～6年生が35時間、3～4年生が10時間ということだと。従来5～6年生は何時間でやっていたんですか？

高崎次長 5～6年生は35時間です。

中井委員 35時間ですよ。3～4年生が10時間増えると。

高崎次長 そうですね。これまでも35時間はやっていたんですけども、やっぱり交野市である程度揃えた指導をしていこうということで、それに向けての体制づくりをしていくということです。

中井委員 35時間？

高崎次長 35時間はこれまでもしていたんですが。

中井委員 していたね。

高崎次長 はい。各校それぞれの取り組みだったんですけども、それを持ち寄りまして導入した中で取り組んでいこうということです。

中井委員 ということは、第3中学校区は2020年度の英語の70時間に向けての研究ではまだそこまでいっていないと、こういう理解で良いんですか？

高崎次長 最終的にはそこに向けてのものになるんですけども、やはり新しい学習指導要領に向けたもので、段階的に取り組んでいくものでございます。

中井委員 取り組んでいくということは、研究授業等もやっていくということですか？

高崎次長 はい。70時間にするには、今の35時間をしっかり土台を作ってその上に重ねていこうというものです。

中井委員 なるほど。交野の英語教育のカリキュラムとかこういう風なビジョンとか、そういうものはあるんですか？どういう授業をしていくとか、先生がどう回すとか、中学校とどう連携していくとか。例えば、普通研究というのはビジョンがあってそれを検証して行って、いわゆるそのPDCAの中で1つの成果を作っていくということなので、第3中学校区で英語の成果目標はどういうことなんですか？

高崎次長 最終的には国が掲げている英検3級程度の取得者というのを5年後には目指しているんですけども、5年後にそこに達成するために5年間かけて取り組んでいこうというものです。

北田部長 元々交野では、当時の交野小学校の校長だった吉田先生、倉治で最後だった。その方の時に、交野市の外国語活動ということで年間の指導計画を作ったんです。

中井委員 大分前ですね。

北田部長 そうです。

中井委員 数年前ですね。

北田部長 はい。それが今おっしゃったように古くなってきたと。第3中学校は、第3中学校区でそれぞれ小学校毎に英語が堪能な教員が各学校毎で各学校の指導計画を作っていると。それで、先程おっしゃったように将来的に英語強化ということになりますと、70時間になれば、やっぱりそういうのを交野として1つ統一してどの学校でも同じような指導計画にしよう。そのステップとして、第3中学校区をまずモデル校として、今までバラバラだったものを1つに統一し、それを全市に広げてという段階を踏んで考えているんです。

中井委員 そうしますと、数年前にあった研究会の1つの研究目標がベースということでもいいわけですね？

北田部長 はい。

中井委員 そうですか。

八木教育長 他に指導課のことについてご質問ありませんか？

亥埜委員 はい。

八木教育長 はい、亥埜委員。

亥埜委員 コンピューター整備事業の2600万円は、主に何にかかりそうですか？

高寄次長 このほとんどが小・中学校のコンピューター教室のリース代になります。

亥埜委員 はい、ありがとうございます。

森脇委員 はい。

八木教育長

はい、森脇委員。

森脇委員

このスクールソーシャルワーカー活用事業の配置する50万円というのは、これは何か起こった時に来てもらった時の対応費用ということですか？

高崎次長

それもあるんですけども、ある程度定期的に派遣しまして、未然防止に取り組むのが1つ。何かあった時の緊急用にももちろん予算としては確保しておこうと思っております。

森脇委員

少ないなと思って。この金額はどういう意味があるのかなと思ったんですが。

高崎次長

専門家ですので、より優秀な方をお願いしまして、1時間あたり5,000円×100時間分ということで予算計上しております。

森脇委員

そういうことですか。その100時間分を行って1年分ですか。その範囲の中で行ってもらうと。

高崎次長

先程申し上げました通り、府としてのスクールソーシャルワーカーの方もいらっしゃると思いますので、より手厚くするための事業となっております。

森脇委員

分かりました。必要に応じて、これはまた増える可能性があるということなんですね？

高崎次長

予算はここまでですので、時間的にはこれ以上は増えないですけども。他の事業もありますので、そういったものと上手く絡めながら学校支援をしていきたいと考えております。

森脇委員

おかしいですね。予算が先にあって、必要な時に動いてもらえないというようなことになったら困るなと思ったし、普段使ってしまうと予算がなくなったら、年度終わりに大きな問題があっても来てもらえないとか。極端に言うのですよ。

高崎次長

そこら辺は府の方とも連携して、緊急支援事業というものがありますの

で、何かあったときにはそういった予算もございませう。

森脇委員 そうということですか。ありがとうございます。

中井委員 よろしいですか？

八木教育長 はい、どうぞ。

中井委員 先程高寄次長は5年後とおっしゃったけれども、英検準1級ですか？

高寄次長 いえ、中学校の3級です。

中井委員 3級ですか。英語教員の資格というのはどうなんですか？交野の現状は。

高寄次長 ちょっと今手元にはないんですけども、調査はしております。

中井委員 先般ご報告いただいた、大阪府のチャレンジテストの結果は大阪府平均は大体上回っているんですが、昨年に比べても大阪府平均に近づいている。交野市が落ちているのか大阪府平均が上がっているのか、どこでも英語にとっても力を入れられているという中で、国でも目標として2017年度に英検準1級を持つ先生を50%にと言っていますがどうなんでしょう？それが即子どもの影響力に結びつくかどうかは別にしてね。1度大体何%ぐらいか調べてください。

高寄次長 はい。またご報告申し上げます。

八木教育長 他に何か指導課関係でございませうか？

全員 質疑なし。

八木教育長 よろしいでしょうか？でしたら、次に移らせていただきます。学校管理課お願いします。

久保課長 はい。学校管理課主要事業をご説明させていただきます。
まず1つ目、倉治小学校校舎防災機能強化対策工事と第4中学校屋内・

運動場防災機能強化対策工事。こちらの2件につきましては、当初は昨年度予定していた事業なんですけれども、国の採択が秋となってしまいました、事業の実施が今年度へということで予算の繰り越しを行いまして、今年度を実施する工事となっております。工事の内容としましては、こちらの事業内容のところに書かせてもらっているんですけども、倉治小学校につきましては南館の校舎のサッシの入れ替え、第4中学校につきましては体育館のサッシの入れ替え及び外壁の塗り替えということになっております。

次の防水改修工事及びトイレ簡易改修工事。こちらの2つの工事につきましては、今年度から平成30年度までの3ヵ年をかけて実施していく主要な工事となっております。まず、防水改修工事なんですけれども、初年度である今年度につきましては長宝寺小学校、私市小学校、第2中学校、第3中学校の屋上防水改修工事を実施していくということになっておりまして、工事内容としましては、各小・中学校の屋上の雨漏り対策として防水シートを張り替える予定となっております。

次のトイレの簡易改修工事なんですけれども、今年度につきましては、交野小学校、星田小学校、岩船小学校と郡津小学校の4校のトイレの簡易改修工事をしていく予定となっております。現在市内の14校の小・中学校の大便器の洋式化率は約23%でございます、簡易改修工事終了後の3年後には50%の洋式化率を目標に改修工事を進めていく予定としております。

1番最後の妙見坂小学校の控室改修工事につきましては、昨年度からの継続事業ということで実施している工事でございます、控室等の建て替えを行うものでございまして、プールが実施される5月中には工事を完了させたいと考えております。簡単ではございますが、事業の説明とさせていただきます。

八木教育長 はい、管理課の説明は以上の通りです。質疑はございませんか？

亥埜委員 いいですか？

八木教育長 はい。

亥埜委員 これはもう入札とか全部終わってるんですか？業者は決まってるんですか？

久保課長 まだ終わってないです。

亥埜委員 これからですか？

久保課長 継続の1番最後の分は決まっておりますが、今年度から実施していく分はこれからの入札です。

亥埜委員 そうですか。実は私防水屋さんなんですけれども、2億1千万あったら半分の7校ぐらい出来るんじゃないかというのが私のざっとした見積もりで。

森脇委員 すごいかかるんだなと私も思ったんですけど。

亥埜委員 また決まったら見積もりとか見せてもらえるんですか？

久保課長 入札の時には設計書とかそういったものを。

亥埜委員 そうですか、分かりました。見れるのでしたら是非。

森脇委員 いいですよ、プロの意見を聞いて少しでも安く。

中井委員 工事現場ということは承認事項でしょ？教育委員会の。

久保課長 金額的には……

中井委員 5千万以上の工事じゃなかったかな？

久保課長 そうですね。金額が5千万以上となればそうなんですけれども。

八木教育長 この前事務委任の議決をいただきましたよ、私。

中井委員 何の？

八木教育長 事務委任の。5千万円までは委任するという議決をいただきました。

中井委員 いつ？

八木教育長 この前です。

中井委員 そうじゃなくって、この間のは議会の予算説明するのを承認ということ
でしょ？全面的な事務委任とは違うでしょ？あれは議会で予算を説明す
るときに教育委員会の承認がいるから、それは事務委任を求めてください
ということなので、全面的な事務委任なんかそんなもの承認しないでし
よ。

八木教育長 いやいや。

中井委員 いやいやって言っても。

八木教育長 議事録をまた確認してください。

中井委員 はい。

亥埜委員 ちょっといいですか？防水なんですけれども、多分ほとんどの学校で水
漏れしていると思うんですけれども、例えばこの4校以外の学校は2年間
は何らかの対処はされるんですか？

久保課長 まず、今年度につきましてはこの4校ということで予定しておりますけ
れども、確かに今おっしゃられました他の学校にも雨漏り等している部分
というのは多々ございます。次年度以降も特に傷みが激しい学校を優先的
に順にやっていく予定にしております。

亥埜委員 それまでは漏らさなければいいですか？

久保課長 そうですね。

亥埜委員 言ってくれたら直しに行きますよ。

森脇委員 いや、これもっと安く出来たらたくさん出来るかもしれないですよ。

久保課長 そうですね。ただ、実際にこの工事をやろうと思えば、基本的には
夏休みの学校が休みの期間というのを利用することになりますので、足

場を組んで工事が出来るかどうかというその辺の関係もございますので、その辺りにつきましては、確かに入札とかしてその差額分が出てくれば、実際に次にやっていく他の学校にも取り組んでいきたいとは思っておりますけれども、授業をされている部分とかその辺の関係もございますので、その辺は調整させていただいた上で、可能な限り前倒しという形ではさせていただきたいと思っております。

八木教育長

他に管理課についてございますか？よろしいでしょうか？

それでは管理課の説明を終わらせていただきます。

次に社会教育課お願いいたします。

真鍋課長

はい、社会教育課です。今回特に新たに行います事業がたくさんございますので、新たな事業をピックアップさせていただいております。その中でも特に今回重要であるかなというところを簡単にご説明させていただきます。

まず、最初に生涯学習推進基本計画の策定でございます。これは学校教育の基本計画の対となる事業計画でございます。

続きまして、子ども体力向上プログラム。これはヘキサスロン教室を民間の事業者と連携しながら実施を予定しております。

続きまして、高齢者ライフステージとスポーツ。これはノルディックウォークと体験教室でございます。6月4日にいきいきらんど交野の方で事業を開催する予定でございます。また、詳細な内容につきましてはご案内をさせていただきたいと思っております。

続きまして、市民教養講座教室。これは昨年度27年度までは体育文化協会の方で行ってございましたが、体育文化協会の解散が28年度末ということで、その辺りを含めまして今年度より直営の方でさせていただいております。

続きまして、1番ページの最後、指定管理施設の管理・運営でございます。今年度は、通常管理業務に加えまして、29年度より5年間の指定管理業者を選定するという業者選定をすることになっております。

ページを変えていただきまして、家庭教育学級の充実という事業がございます。その他、6月27日に専門の先生に来ていただきまして、親になるための学習支援の講演会というものを予定しております。この辺りもご案内の方させていただきますので、宜しくお願いいたします。

以上、社会教育課の主要事業の説明とさせていただきます。宜しくお願いいたします。

八木教育長 社会教育課の事業に対して質疑はございませんか？よろしいでしょうか？

中井委員 よろしいですか？

八木教育長 どうぞ、中井委員。

中井委員 生涯学習推進基本計画、これは今年度策定ということなので。

松川部長 10年や？5年？10年計画？

真鍋課長 10年です。申し訳ございません。

中井委員 10年を含めた5年ですか？それも今後どう作るかの話でしょ？

真鍋課長 その辺りも今から庁内検討会議や策定委員会を立ち上げまして、今後の進め方などを色々と議論していきたいと思っております。

中井委員 これは策定委員会であるのか審議会であるのか、どういう風にお考えですか？というのは、教育委員会内部で作るのか、外部の学識経験者を交えてするのかということです。

真鍋課長 外部の学識経験者に入っていただきまして行う予定でございます。

中井委員 有識者とは違いますよ。学識経験者ですよ。それは会議の規則か何かあるんですか？

真鍋課長 条例の方で設置させていただきます。

中井委員 条例設置ね。

真鍋課長 はい。予定しております委員さんでございますが、学識経験者2名、生涯学習に関わる関係者5名、公募による市民を2名予定させていただいております。

- 中井委員 なるほど。
- 真鍋課長 また教育委員会の方にも適宜色んな報告をさせていただきながら作成をさせていただきたいと思いますので。
- 中井委員 生涯学習の考え方が大きく変わるみたいですから、従来の地域の生活の充実のところから学校とのコミュニケーションと。優秀な学識経験者を入れて、その知見を入れないことには私はダメだと思いますので、そういう要望をしておきたいと思います。
- 八木教育長 はい、他に社会教育課の主要事業について質疑はありませんか？
- 中井委員 市民教養講座の教室の1, 370万円は、それ以外の事業につきまして非常に突出していると思うんですけども、この内容については大丈夫ですか？一部の市民のどうのこうのとか。色々市議会で質問を受けるとか、こういう風な要素はないですか？
- 真鍋課長 それは部屋代であるとか講師代であるとか、今まで体育文化協会に委託していた事業を精査かけましてこちらの方にもってきておりますので、その辺りはこちらの担当課の方で確認させていただきます。
- 亥埜委員 こちらから家庭教育の充実にいくらか回してあげたら良いなと思います。300万円ぐらい。
- 中井委員 本来ならば、支援本部事業も社会教育課が担当ですよ？
- 真鍋課長 そうです。
- 中井委員 本来ならばね。その辺のところでは他の皆さん方に早く追いついて、交野の子ども達の支援になるようなことを考えていただければ。真鍋課長、お願いします。
- 八木教育長 他に質疑はございませんか？
- 全員 質疑なし。

八木教育長 よろしいでしょうか？
でしたら、青少年育成課お願いいたします。

古賀次長 はい、青少年育成課の主要な事業のご説明をさせていただきます。継続事業でございます放課後子ども教室推進事業フリースペースでございます。現在毎日開催を岩船小学校と長宝寺小学校でさせていただいているところでございます。他の小学校につきましては、毎週水曜日に開催させていただいております。

次に、放課後児童会。これも継続事業でございます。新たに行うことといたしましては、旭小学校の放課後児童会の上に太陽光ソーラーパネルの設置を今年度を実施するというものがございます。

次に、これも継続事業でございます。中学生支援事業を昨年度も第4中学校の理科教室を会場場所として、年に8回程度行っております。同様の調整を第4中学校及び地域連携のもと摂南大学の調整を行っているところでございます。

次に少年少女発明クラブでございます。昨年度まで団体補助として行っていた事業を直営事業として行うものでございます。活動日については、月に2回、土曜日に実施しております。対象といたしましては、小学生を対象に物作りから行う発想とか想像力を発揮できるように活動を行っているところでございます。

以上でございます。

八木教育長 はい、青少年育成課の事業について質疑はありませんか？

森脇委員 はい。

八木教育長 はい、森脇委員。

森脇委員 フリースペースのことなんですけれども、ここの文章を読むと10校で水曜日1日のフリースペース事業と、長宝寺小学校と岩船小学校で毎日開催は今やっているんですけれども、これを前提としての予算額になっているんですけれども、これは今年中に残りの10校を毎日開催できるという目標はあるんですか？

古賀次長 目標はもってやっております。当初の予算が今申し上げた開催日に伴う予算となっておりますので、開催時期、安全ボランティアの確保等々が定

まった段階で今後途中での補正予算等も検討してまいりたいという風に担当課は思っております。

森脇委員 分かりました。今年中ですか？目標は。

古賀次長 おっしゃっているのは、10校すべてということでしょうか？

森脇委員 そうです。

古賀次長 10校すべてを今年中というところまでには至らないと思っております。1つでも多くのところで開催できればという風に思っております。

森脇委員 目標をどこに定めるかで行動が変わってくると思うんですね。できればいいという考えであれば、もしかしたら来年も再来年も10年後もできないかもしれないと思うんですよ。だから、優先順位だと思うのでここで議論してはいけないと思うんですけども、すみません、一言言わせてください。

明確な目標を定めて欲しいと思うんですね。それをやっぱり、フリースペースは別にその程度で良いと思ってらっしゃるのかどうかということだと思うんですけど、私はすごく大切なことだと思ってるので、ご検討をお願いします。

古賀次長 担当課としても非常に重要な事業ということで主要事業の1番初めにあげさせていただいております。

森脇委員 じゃあ目標をお願いします。

古賀次長 まず、今年度につきましては、星田小学校及び妙見坂小学校というところを出来ればなという風に思っております。ただ、目標というものも予算を伴ってというところもございますので、先程申し上げましたように、1つでも多くのところで出来るような開催を務めるというところに目標もっておりますので、ご理解いただけたらという風に思っております。

中井委員 あの、いわゆる放課後子ども教室推進事業ですよね？

古賀次長 はい。

中井委員 国の方でも放課後子ども教室ということでやっているわけで。私は前回生涯学習部の事業報告の時にもお話したけれども、それ以外にもやはり放課後等の学習指導とか、その中で活動拠点の確保とか色々な事業があるわけで、森脇委員のおっしゃるフリースペース事業もその中の1つということなので。1つですよ？

古賀次長 はい。

中井委員 本来ならば、子ども達の居場所づくりということで。1つは、学校で宿題の勉強をしたりとか、そういう活動を地域と共にやっていきたいと思います。森脇委員の気持ちも非常に分かるけれども、やはり1つは先程のシステムの整備ということを進めていただきたいと思います。

森脇委員 協議会でまた言った方が良いですか？ここで言わないで。

八木教育長 はい。またあればお願いします。

森脇委員 分かりました。

中井委員 それと、前にプラスバンドや少年音楽団の予算が計上されていたと思うんですが、ああいった予算はどこに入ってるんですか？

古賀次長 主要事業にはあげさせていただいておりませんが、同じように少年少女音楽団というところであがっております。

中井委員 金額的にはどのぐらい？

古賀次長 市の予算書的な見方になりますと、報償費が講師謝礼になるとか、使用料及び賃借料の施設使用料であるとか、またプラスバンドであれば楽器の修繕ということで。

中井委員 で、金額的にはどのぐらい？

古賀次長 すみません。音楽団の年間の予算は、517万6千円でございます。

中井委員 それは吹奏楽団だけ？

古賀次長 いえ。

中井委員 合唱団も？

古賀次長 ジュニア吹奏楽団、合唱団、それとチア。3段階すべてです。

八木教育長 はい、他に青少年育成課についてよろしいでしょうか？

全員 質疑なし。

八木教育長 でしたら、次に移らせていただきます。図書館お願いします。

川村課長 はい。図書館の方もまちの図書館化事業ということで、図書館のリサイクル図書を活用して市内の施設などに図書コーナーを設置するというものです。あとは、ブックスタートで4ヶ月児検診に図書館から参加しているんですけども、そこで絵本の読み聞かせや読書相談、図書館利用案内とともに絵本を配布するというものです。学校図書館支援事業ですが、平成25年度から始めまして、今年度が最終年度。岩船小学校、藤が尾小学校、第4中学校の整備をする期間となっております。以上です。

八木教育長 図書館の主要事業について何か質疑はありませんか？よろしいですか？

森脇委員 すみません。

八木教育長 森脇委員。

森脇委員 これは図書に関して全部ですね？図書館の予算は。

川村課長 主要なものということで、他にもありますがここにはあげておりません。

森脇委員 市の図書館がこちらにもありますけれども、その本の入れ替えに対する

費用というのは。

川村課長 別に予算をいただいております。

森脇委員 別枠で？

川村課長 はい。

八木教育長 他に質疑はありませんか？

中井委員 はい。

八木教育長 はい、中井委員。

中井委員 市長も本の森プロジェクトについて言及されていますけれども、いわゆる本の森プロジェクトについての特別な予算はつけていない？

川村課長 図書館の方では。

中井委員 図書館の方ではって、あれは読書計画推進の事務局は図書館でやるということになったので、図書館であげなければどこもあげないんじゃないですか？

後藤課長 教育総務室の方で一応あげてはいるんですが。

中井委員 教育総務室にはいってるわけですか。

後藤課長 教育総務室で、はい。

中井委員 どれくらい予算があがったんですか？

後藤課長 50万円くらいですかね。

中井委員 それは決定ですか？

後藤課長 いえ、予算がとれていないんです。あげたんですが、ダメでした。

中井委員 そうですか。市長も本の森プロジェクトに言及されていますし、読書計画の中心でしょ？本の森プロジェクトは。そうですか。

森脇委員 すみません、いいですか？

八木教育長 はい、どうぞ。

森脇委員 川村課長、先程の説明で、本の新しい購入に対する費用はどのぐらいなんですか？ちなみに。

川村課長 1, 550万円です。

八木教育長 はい、他に質疑はありませんか？

全員 質疑なし。

八木教育長 でしたら、次にこども園課をお願いします。

竹田部長 はい。最後になりますが、こども園課の方の平成28年度予算のご説明をさせていただきます。

平成27年、昨年4月から子ども子育て支援の新制度がスタートしまして、それまでの幼稚園につきましては、幼稚園、保育所が一体となった保育園で運営してまいりました。新制度施行スタートによりまして、幼保連携型の「認定こども園」という仕組みが出来ましたことから、平成29年4月にその幼稚園を「認定こども園」に移行することといたしまして、今後手続きを進めていきたいと考えております。

それに伴いまして、今年度予算を、当初予算は計上しておりませんが、6月議会で補正予算を。特に幼稚園部分の3歳児の受け入れをしますもので、その部分の施設改修。また、それに伴います備品購入等で補正予算を計上いたしたいと思っております。

詳細につきましては、1枚A4で横版ですが、認定こども園移行にかかります予定ということでこども園課から資料を添付させていただいておりますので、またごゆっくりご確認いただけたら有難いと思っております。あわせて、関係条例の制定も上程を予定しております。簡単ですが、以上でございます。

- 八木教育長 ただいまのこども園課の説明につきまして、質疑はありませんか？
- 中井委員 こども園課への移行の手続きというのはどういう風な手続きがあるんですか？
- 竹田部長 認可につきましては府の認可になりますので、市の方で規約等も整えまして、府の方に認定を申請する予定です。府で認可をいただく形になります。
- 中井委員 これはやっぱり諮問と答申があるわけですよね？どこに諮問するんですか？
- 竹田部長 諮問は、子ども子育て会議が子ども子育てに関する諮問機関として条例で制定しておりますので、移行に関してはこの5月に諮問して答申をいただきたいと考えております。
- 中井委員 なるほど。
- 竹田部長 また、定員等につきましてはその後改めて諮問・答申をいただいて、それを受けて府の方に申請を出すという形になるかと思えます。
- 八木教育長 はい、こども園課の事業についてよろしいでしょうか？
- 全員 質疑なし。
- 八木教育長 それでは、これまでの主要事業の説明につきましては終わらせていただきます。この後追加議案がありまして、実は次第には載っていないんですけども、追加議案がここに入っているんですね？
- 後藤課長 はい。
- 八木教育長 資料は皆さんお持ちなんですか？
- 後藤課長 はい。

八木教育長 追加議案第18号というのが1つありますので、宜しく願いいたします。追加議案第18号「交野市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正に対する意見を市長に申し出ることについて」の追加議案がございますので、担当よりご説明をお願いいたします。

古賀次長 はい、宜しく願いいたします。交野市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正に対する意見を市長に申し出ることについて委員会の承認を求める。

目的は、順守すべき法律の改正に伴い文言の整理を行うものでございます。追加議案の資料の最終ページに新旧対照表をつけさせていただいております。ご覧いただいておりますでしょうか。条例第10条第3項第4号のところでございます。現在学校教育法の規定により、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校または中等教育学校の教諭となる資格を有する者」という風に記載になっているところでございます。「中学校」の次に「義務教育学校」を追加するものでございます。

簡単ではございますが、以上で説明を終わらせていただきます。

八木教育長 はい。要するに、国の法律が変わったもので文言を追加しないといけないので、うちの条例も変えさせていただきたいという、そういう追加議案でございます。この件について何かご意見ございますか？よろしいですか？

全員 異議なし。

八木教育長 はい、でしたら異議なしと認めます。よって、本件は原案の通り承認されました。他に何か。

松下室長 よろしいですか？ちょっと熊本の地震に関しまして、交野市の対応と学校の対応につきましてご報告させていただきたいと思っております。

八木教育長 はい、お願いします。

松下室長 まず、交野市の対応でございますけれども、4月16日の土曜日に消防

本部の救急隊3名を熊本市に派遣したところでございます。次に募金活動でございますけれども、4月17日に開催されました交野マラソンの会場におきまして、義援金の募金活動を実施しました。総額38万1千932円の義援金が集まったところでございます。

4月18日から市内公共施設5か所、青年の家等を含めます5か所で義援金の募金箱を設置したところでございます。それとあわせまして、市の職員による募金活動につきましては、21日、22日の木曜日と金曜日の午後5時40分から7時までの間で、市内5駅で市職員による募金活動を実施する予定となっております。

続きまして、学校での募金活動の状況でございますけれども、4月20日から市内中学校4校の生徒会が自主的に校内で募金活動を開始しております。それと、4月26日の朝7時40分から8時10分までの間で第1中学校の生徒が交野市駅前で、第4中学校の生徒が河内磐船駅前で募金活動を行う予定となっております。以上でございます。

八木教育長

はい、ありがとうございました。今朝の産経新聞にもこういう記事が載っているということで、ここに摂南大学の学生もやっているという記事も載っています。報告、その他は以上でございます。これで本日予定しておりましたすべての案件が終了いたしました。

それでは、引き続き協議会を宜しくお願いいたします。

交野市教育委員会会議規則第20条の規定により署名する。

交野市教育委員会

教育長

委員
